

アニコムが描くペットと人の未来

高度獣医療と病気予防を加速するJARVIS Tokyo

ペット保険を中心に、ペットと人の未来を見据えた事業を展開するアニコムグループが、「JARVIS どうぶつ医療センター Tokyo」を開院して1年。アニコムホールディングスの小森伸昭代表に、グループの取り組みと今後の思いを聞いた。

「心の発電所」である
ペットをいかに病気や
ケガから守るか

契約件数は
140万件を超え
フードなど
グループ事業も展開

アニコムグループの中心であり、現在、ペット保険シェアNo.1※1のアニコム損害保険の営業開始は2008年。

その背景について小森代表は「犬や猫などの動物は一見か弱い存在ですが、実は私たちに元氣や勇氣や癒しを与えてくれる『心の発電所』なのです。そんな動物たちにもっと目を向けていける社会になればというのが、最初の思いでした」と話す。それを

アニコム損害のペット保険は、対応病院の窓口で「どうぶつ健康保険証」を提示することで、人の健康保険のように、保険適用後の自己負担分のみを支払える「窓口精算」を利用できる点などが特徴。保有契約件数は約141万件、対応病院数は7000病院※2を超えている。

また、2004年には動物病院向けの顧客管理ソフトの開発や、フード販売などを行う「アニコムパフェ」を設立。さらにフリーディングを行う「フローエンス」、動物病院の経営や遺伝子検査・研究を行う「アニコム先進医療研究所」、「みんなのブリーダー」などペットに関するインターネットサービスを開発・運営する「シムネット」などを展開し、ペットと飼い主をトータルにサポートしている。

を、獣医師の専門的裁量に基づき適用外使用として位置づけ、運用している。

開院の背景について小森代表は、「長年ペット保険を提供してきたことで得られたデータをもとに、ペットの慢性疾患やがん、腎臓病、心臓病などの発症傾向について研究を進めてきた。診療に携わる獣医師らと検討を重ね、治療の高度化を目指すべく、当センターを開院しました」と話す。

高度獣医療を支える
設備と診療体制

アニコムの
新たなステージへ
すべての命の
幸せを追求

して、飼い主に安心を提供する配慮も当院ならではの。



手術支援ロボットを備えた診療室



MRIの様子



interviewee
小森 伸昭氏
アニコム ホールディングス
株式会社
代表取締役

こもり・のぶあき／1969年、兵庫県生まれ。京都大学農学部に入学生3年次に経済学部転部。卒業後、東京海上火災保険（現、東京海上日動火災保険）に入社。経済企画庁（現、内閣府）国民生活局生活調査課に出向。2000年にピーエスピー（現、アニコム ホールディングス）を創業、代表取締役就任。現在、アニコム損害保険取締役・会長執行役員等を兼務。

データをもとに
高度獣医療への挑戦

昨年10月には、東京都港区に「JARVIS どうぶつ医療センター Tokyo」を開院した。同院では、ヒト医療用として厚生労働省の承認を受けた手術支援ロボット



CT室

実際、院内には手術支援ロボットなどの設備が並ぶ6連の手術室や、MRI、CTなどを完備。また、診療分野の幅広さも大きな特徴で、循環器部門、呼吸器部門など複数の診療部門を設け、各分野に精通した獣医師が診療を担当している。手術室やMRI室はペットが見えるガラス張りとして、飼い主に安心を提供する配慮も当院ならではの。

JARVIS Tokyoの
開院1周年写真展開催情報はこちら

